



1_左から高橋武志指揮者、井熊達也1番員、松野義文2番員、古山茂和3番員、小室正男補助員 2_応援に駆け付けた家族たち 3_迅速に小型ポンプを操作する松野2番員・古山3番員と防火水槽に吸管を投入する小室補助員 4_放水する井熊1番員、5_大平分団で独自に作った揃いのTシャツ 6_選手たちを支えてきた大平分団の皆さんと選手たち 7_呼吸を合わせホースを操る松野2番員と古山3番員 8_火点に向かって走る高橋指揮者



消防魂！ 熱き男たちが心と技を競う

白石市消防団（大平分団）が県消防操法大会に出場 「小型ポンプ操法の部」で3位入賞！

7月29日、「第47回宮城県消防操法大会（宮城県・登米市・財団法人宮城県消防協会主催）が登米市南方中央運動広場で開催された。

この大会は、県内の消防団員の消防技術の向上と士気の高揚を図るとともに、団員相互の連携を密にし、消防活動の充実発展に寄与することを目的に2年に一度開催されている。

本年は6人1組の「ポンプ操法の部」と5人1組の「小型ポンプ操法の部」の2種目にそれぞれ、県内6地区の6消防団が出場。士気や規律、敏しように、確実性、チームワーク、安全性などの総合点審査や、標的を倒すまでの計時審査得点で順位を競い合った。

本市消防団（跡部敏団長）からは、大平分団（角田和雄分団長）の精鋭5人が「小型ポンプ操法の部」に出場。選手たちは、1月から3月は週2回、4月から7月は週3回、厳しい訓練に耐え大会に臨んだ。

気温30度を超える猛暑の中、指揮者の号令とともに機敏な動きとチームワークでホース延長などを行い、火点に向けて放水。激しい勢いで水が標的を倒す

と、応援に駆け付けた消防団員や選手の家族などから大きな拍手が沸き起こった。

結果は、優勝した登米市消防団とわずか0.5点差、準優勝の気仙沼市消防団とは総合得点で並んだが、標的を倒すまでのわずかな時間の差で敗れ、3位となった。

高橋武志指揮者は「白石消防署の皆さんや白石市消防団の仲間たちなど多くの人たちの支えがあった大会に臨むことができました。大会を通して感じたのは、チームワークの大切さ。いざという時に冷静な行動と的確な判断を行い、連携して行動できるよう、これからも白石市消防団の仲間たちとともに訓練に励み、精進していきたいです」と決意を新たにしていた。

消防団は、消防本部と同様、消防組織法に基づき、それぞれの市町村に設置される消防機関。地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わず地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っている。

大会を終えた消防団員たちは、地域や家族、かけがえのないものを守りたいという想いをひとつに、これからも訓練を重ねていく。

すべては「守る」ために！